

令和6年度串本町病院事業改革評価委員会の評価結果及び意見について

令和7年3月25日に行われた標記委員会において、事務局から以下の内容が報告されました。

令和5年度に策定した「くしもと町立病院経営強化プラン」は、令和5年度から令和9年度までの5年間の計画期間として策定したものです。当評価委員会は、経営強化プランの進捗状況等を確認する場となっており、今回は計画の初年度にあたる令和5年度の取組状況を確認する会議となります。

令和5年度は経常収益において、計画値を8,750万5千円下回っています。未達成の主な要因は、医業外収益のうち、他会計負担金の額が大幅に下回ったことによるものです。

収益面では、医業収益で介護医療院収益の増加などにより、計画値を137万6千円上回り達成となっています。

費用面では、医業費用で6,109万7千円、経常費用で8,468万5千円上回り未達成となっています。主な要因は、職員給与費が計画値を上回ったことによるものです。医業費用の増加が要因で、1億7,219万円の赤字となり未達成となりました。

医業収支比率は、計画値を2.4ポイント下回っています。

修正医業収支比率は、計画値の計算方法に誤りがあったため、正しくは計画値が76.1%となり、実績値の73.8%と比較し2.3ポイント下回っています。

資金不足額及び資金不足比率は発生していません。

「役割・機能の最適化と連携の強化」のうち医療機関や医療の質、連携の強化等に係る数値目標は、計画値と概ね近似値となりましたが、手術件数が189件、入院患者数が24,940人、外来患者数が46,694人となり、計画値を下回り未達成となりました。

「経営の効率化等」のうち経営指標に係る数値目標では、病床利用率等一部は達成しましたが、医業外収益で他会計負担金を過大に見込み、医業費用で給与費を過少に見込んでいたことから、経常収支比率が89.2%となるなど、経営指標が未達成となりました。民間的経営手法の導入において、経営分析サービスを活用した経営分析を開始しています。また、管理者会議における決定事項を全医師及び各部署長が出席する病院運営協議会で報告するとともに、随時、経営状況を報告して問題意識の共有を図っています。事業規模・事業形態の見直しにおいては、令和5年10月に療養病床4床を介護医療院へ転換しています。経費削減・抑制対策では、材料費において、在庫の医薬品の使用期限の管理を徹底し、薬品の廃棄が起こらないよう努めており、他の診療材料についても安価なものに置き換えることや交渉をおこなうことにより価格抑制に取り組んでいま

す。委託料は、契約の見直しを行うなど削減に取り組んでいます。医療機器等購入費は、購入する医療機器等の精査を行い、削減に取り組んでいます。また、光熱水費、消耗品費についても削減に努めており、経費削減・抑制対策については、計画値を下回り達成となりました。収入増加・確保対策については、手術件数が主に外科手術の減少により計画値を下回ったものの、病床利用率など手術件数以外の項目については達成しております。

「医師・看護師等の確保と働き方改革」では、当直応援医師を確保し、研修医9名を受け入れております。また、通信機能付きバイタル機器による電子カルテ入力作業の効率化など病棟業務の効率化を行っており、院外閲覧端末を導入するなど当直医師の負担軽減に取り組んでいます。

「経営形態の見直し」では、事業形態の見直しとして療養病床4床を介護医療院へ転換しました。

「新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組」では、感染対策委員会を設置しています。また、令和6年1月31日に、和歌山県との間で医療機関措置協定を締結しています。

「施設・設備の最適化」については、電子カルテの更新費用が多額となりましたが、令和5年度の計画値を下回っています。また、予算編成段階で経費抑制・削減に努めています。デジタル化への対応として、勤怠管理システムやWEB給与明細システムを令和6年度から導入・運用しており、令和5年度は事前準備を行いました。

収支計画については、令和5年度決算見込みより、医業外収益の他会計負担金が1億3,200万円に減り、医業費用の職員給与費が11億6,400万円に増えたことなどから経常損益がマイナス2億3,100万円となり、累積欠損金が1億6,600万円となりました。

<その他>

令和6年度につきましては、令和5年度の決算状況を踏まえ、年度途中で串本町から追加で2億6,000万円の繰入金をいただくなど、病院事業の継続に対してご協力をいただいています。

各委員からの主な質疑・意見は次のとおりです。

○病床利用率は民間では9割以上。8割台になると経営が難しくなる。

- 一般病床の診療単価が令和4年度に比べ令和5年度は下がっている。
どのような理由か。
(回答) 看護師不足により、入院の加算点数が下がったことなどが考えられます。

- 経費削減や効率化ばかりではなく、医師の確保など、病院の評判を良くしていくための政策を考えてほしい。
- 休診や診察時間が遅れるといったことが多い。町民や患者の信頼を病院が捨てたいのかと思う。
- 評判を良くするためには、医師を確保するだけでなく医師自身が患者の立場で考えて対応しなければならない。
- 休診の放送は評判が悪い。
- 休診の放送内で理由まで説明していないため、町民や患者は理由もわからず、そのことで評判が悪くなっている。
- 電話、救急などが重なって対応できないことに、マンパワーが不足していると感じている。
- トラブルをなくし、評判を上げることを考えていきませんか。
- 質問に対して、きちんと数字で答えられるようにしてほしい。
- 指摘に対して、早急に取り組んでいただき、持続可能な病院経営で、皆様に信頼されるくしもと町立病院を作っていきましょう。